

南満洲鐵道株式會社の上海航路

松 浦 章

- 1 緒 言
- 2 南満洲鐵道株式會社と海運
- 3 南満洲鐵道株式會社と上海航路
- 4 小 結

摘 要

1906年に設立された日本の国策会社であった南満洲鐵道株式會社はいわゆる「満洲」において鐵道事業のみならず炭坑や製鐵所さらに鉱工業なども經營する大企業へと成長して行くが、これに関してはこれまで多くの業績が蓄積されてきた。

しかし、南満洲鐵道株式會社の海運事業に関してはさほど注目されていない。そこで本稿において、南満洲鐵道株式會社が重視した大連と上海とを結ぶ定期航路がどのように運航されていたかについて述べたい。

キーワード：南満洲鐵道株式會社 大連 上海 定期航路 神戸丸

1 緒 言

日本とロシアとの日露戦争後の講和条約である1905年（明治36、光緒31）9月ポーツマス（Portsmouth）条約の一項として、ロシアが日本に、中国東北の長春以南の東清鐵道南部の支線と遼東半島南部の旅順・大連の租借権を日本に譲渡したことで、1906年（明治37、光緒32）、日本の国策会社として、中国東北の長春・旅順間の東清鐵道とそれに関係する支線及び附屬地を經營する半

官半民の南滿洲鐵道株式會社が設立された。¹⁾ 同會社は、その後、炭坑や製鐵所などの他に鉦工業も經營する巨大企業として成長していく。²⁾

1937年の南滿洲鐵道株式會社鐵道總局が刊行した冊子『大連 昭和十二年版』によれば、南滿洲鐵道株式會社について、

事業として鐵道・埠頭・倉庫・工場・炭礦・製鐵・地方經營をもち、施設に衛生・教育・試験研究・産業助成等がある。半官半民八億圓の大資本と、全滿に亘つて十一萬三千の社員を擁してゐる。³⁾

とあるように、1937年当時の南滿洲鐵道株式會社は11萬の社員を擁する大企業であった。同社は、日本のアジア太平洋戦争の敗戦によって終末を迎えるが、その時点では40萬人の職員⁴⁾を抱える巨大企業となっていた。

東清鐵道は、ロシアが1896年に清朝との間での密約が契機となり、シベリア鐵道とウラジオストクを結ぶ敷設権と、1898年にハルビンと旅順間の南部支線の敷設権を得て1901年に全線開通した鐵路であった。南滿洲鐵道株式會社はその舊鐵路を經營することが主眼であったが、漸次関連事業を興起し巨大化していくのである。

その南滿洲鐵道株式會社の多岐にわたる事業については知られるが、その海上への航運事業についてはあまり知られていない。財団法人滿鐵會が編集した『滿鐵四十年史』に、

滿鐵が經營した航路は中国向けのみで、〇八年八月、大連・上海間の定期航路を開設した。上海および沿海部の旅客貨物郵便物を、大連で歐亞連絡急行に接続させる構想だった。そのほか大連・營口と香港・廣東間の航路を開いたが、一八年三月末の香港航路の廃止をはじめとして、二二年には全航路を子会社の大連汽船に譲渡した。⁵⁾

と記すのみで、その詳細は不明である。

そこで本稿において、南滿洲鐵道株式會社の大連と上海を結ぶ定期航路がどのように運航されていたかについて述べたい。

2 南満洲鐵道株式會社と海運

日本政府は明治39年（1906）6月7日付の勅令第142号により、南満洲鐵道株式會社設立のことを公布した。これにより8月1日付で、日本政府の通信・大蔵・外務の3大臣からの命令書が交付された。その第一条に次の鐵道による運輸業を經營するとされた。その鐵道は、以下の路線であった。

大連・長春間鐵道, 南關嶺・旅順間鐵道, 大房身・柳樹屯間鐵道, 大石橋・營口間鐵道, 烟臺・烟臺炭坑間鐵道, 蘇家屯・撫順間鐵道, 奉天・安東間鐵道⁶⁾

以上の7鐵道である。その第二条では、營業開始から三ヶ年以内に「四呎八吋半」の軌道に改築することとし、さらに大連長春間の軌道の内、大連蘇家屯間を複線にする⁷⁾こととなっていたのである。ついで第四条に、鐵道の便益に關係する付帶事業を經營するとして、次の事業が営まれることになっていた。鉍業ことに撫順及び烟臺の炭坑採掘、水運業、電氣業、倉庫業、鐵道附属地における土地及び家屋の經營、その他政府の許可をうけた營業⁸⁾などであった。



大連・滿鐵本社（『大連 昭和十二版』滿鐵・鐵道總局, 1937年5月による）

南滿洲鐵道株式會社は、1907年4月1日より約1,136 km に及ぶ鐵道事業を開始した。本社はまもなく大連の東公園町に建設した（前頁写真参照）。初年度の營業成績は収入12,543,000円、支出が10,527,000円で、2,016,000円の利益を上げた。とくに、鐵道による収入は9,769,000円と、總収入の77.9%を占めていた。⁹⁾

先の三大臣の命令書の第二条にあったように、軌道幅の改軌が必要であったことと、大連・蘇家屯間の複線化が求められ、國際標準軌間すなわち広軌1,435 mm に変更するが、1908年5月27日に、大連・長春間の標準軌道による運轉が開始されている。¹⁰⁾

南滿洲鐵道株式會社の鐵道事業とともに、重要な事業が港湾都市である大連との関係であった。日本政府はロシアとの関係から1906年9月1日に大連港を自由港と



遼東半島西南端図（『大連港』^(注12)による）

し、大連港と市街区の建設を推進し、1917年には一萬噸級の船舶3隻を含め22隻、95,000噸を停泊できる施設を整備した。¹¹⁾ その結果、清朝時代に開港された遼河口の營口の貿易額を凌駕するようになるのである。

南滿洲鐵道株式會社は大連における港湾の埠頭の改築、防波堤の増築、港内の浚渫などの事情を推進するため埠頭事務所を設けた。そして同所は埠頭の管理、船舶の出入、船舶の營業、埠頭における貨物の積み卸し、保管に関する事務をおこなった。¹²⁾ 埠頭事務所の具体的業務は次のようであった。

埠頭事務所は滿鐵會社經營に係る水運及び水陸聯絡に關する諸般の事務取扱に従事する最樞要の事務所なり、當港に於ける防波堤、埠頭及び埠頭倉

庫は全部本社の所有に係り、目下使用中の埠頭繫船岸は、其延長實に六千四百四十三尺にして、吃水三十尺迄の船舶を係留することを得、鐵道及倉庫は埠頭構内、到る所に設けられ船舶より陸揚し、又は陸上より船積する貨物は、直に船側に於て鐵道に接續し得るが故に、旅客貨物にとりては無上の便益あり、當港を經由する貨物は鐵道貨物と船舶貨物とを問はず、必ず埠頭の取扱ふ處にして、大連・上海間定期航路の事務も亦當所に於て取扱い、何れも年々長足の進歩を爲し前途頗る有望なる微候を呈せり。¹³⁾

大連港の防波堤、埠頭及び埠頭倉庫は全て南満洲鐵道株式會社の所有であった。この倉庫業には特有のシステムがあった。それは「普通預」、「發送預」、「到着預」の三種である。¹⁴⁾

「普通預」は、一般の倉庫業と同一であった。倉庫料は貨物を鐵道輸送に依頼することが決定した後は、倉庫への貨物の入出手数料は無料として、倉庫料は半額となった。また、船舶に積載する場合は、倉庫に入庫後の10日間の倉庫料と倉庫への出入料は免除された。

「發送預」は、鐵道による運送を依頼した貨物を鐵道による輸送が決定するまで保管するものを言った。この場合の倉庫料は全額無料であった。

「到着預」は、鐵道による運送後に、貨物が到着した駅において保管する方法であった。この場合も、船舶へ積載するまでに生じる10日間の倉庫料、入庫料は免除された。¹⁵⁾

大連港から輸出される重要貨物は大豆や大豆油であり、倉庫での保管に際して細心の注意が払われていた。

その品質の鑑定は南満洲鐵道株式會社が行い、品質が不良なものは保管を謝絶し、保管する数量は、一回5噸を下回るものは保管が出来なかった。¹⁶⁾

3 南満洲鐵道株式會社と上海航路

南満洲鐵道株式會社が海上航路において重視していたのは大連と上海の航路であった。大連埠頭事務所の『大連港』の「大連上海航路」に次のようにある。

本社は支那商業の中心たる上海と歐洲との聯絡を計る爲め、多大の犠牲を拂て、當地（大連）上海間に四十一年八月十日より西京丸、神戸丸の二隻を以て、一週二回の定期航海を開始したるも、本年（大正元年）八月より西京丸に代へ更に最新式客船として「タービン」機關を備へ、快速力を有する三千八百七十六噸の榊丸を使用せり、目下大連發著の日取は満鐵の急行車を通じ直に西北利亞の急行車と接續し、上海歐洲間の旅行には最も便利なり、此航路は大連上海間交通貿易の連鎖となり、南北兩清の商業、經濟を發達せしめしのみならず、世界の交通商業に至大の便益を與へつつあり。¹⁷⁾

南滿洲鐵道株式會社は、大連と上海との關係を重視していた。当時の上海は中国のみならずアジアのみならず世界においても巨大港湾都市であり、人的、物的交流に欠くことの出来ない港であった。そのため南滿洲鐵道株式會社は、基幹港である大連と上海との航路の連繫を重視したのであった。南滿洲鐵道株式會社の設立の翌年の明治41年（1908）には上海との定期航路を開始する。南滿洲鐵道株式會社にとって、大連上海航路の定期運航は重要な意味があった。

南滿洲鐵道株式會社の開始から15周年を迎えた大正11年（1922）に出された笠原益恵『満鐵の事業と人物』¹⁸⁾によれば、大連上海航路の必要性は次のようであった。

前總裁（初代後藤新平）時代よりの方針に従ひ、鐵道の完成と共に港灣設備の完成を期すべく、埠頭修築工事を進め、同時に埠頭構内の諸設備を整理完成に努力。且鐵道及船舶の聯絡輸送を計劃し、明治四十一年五月大連長春間に、一週二回の急行列車を運轉し、東清線其他と接續を爲し、歐亞聯絡輸送の計劃を實現すると共に、同年八月日本郵船會社より神戸丸（二、八七七噸）を備入れ大連上海間の旅客貨物の定期航路を開始した。尚神戸丸の姉妹船たる西京丸をも備入れ四十二年五月より毎週二回の往復を実施したが、翌二十三年海事協會と協議し、第三義勇艦榊丸を神戸川崎造船所に於て建造に著手、大正二年三月進水、八月十日大連港に廻航、西京丸を解備し代船として就航せしめ今日に及んで居る。¹⁹⁾

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

南満洲鐵道株式會社の初代総裁後藤新平時代から、鐵道の整備のみならず大連港の設備の整備を進捗させるとともに、歐洲とアジアを聯絡する鉄道路線の計画があった。そのために明治41年（1908）5月より、大連と長春間の鉄路に毎週2回の急行を運行すること、そして同年8月には、日本郵船会社から備船した神戸丸2,877噸を大連・上海航路に就航させ、明治42年（1909）5月より、神戸丸の姉妹船西京丸をも備船して、毎週2回の大連・上海間の定期運航を展開していくのであった。その後、大正2年（1913）8月からは、西京丸にかわって榊丸が同航路に就航するのであった。

そこで、1909年（明治42年）1月から1910年12月末までの2年間の南満洲鐵道株式會社の大連からの上海航路運航表を上海の英字新聞 “*The North-China Herald and Supreme Court & Consular Gasett*” 紙の ‘Shanghai Shipping Intelligence’ の船舶入港、出港欄から神戸丸と西京丸の運航表を作成した。

表 1 1909年1月-1910年12月 南満洲鐵道株式會社の上海航路運航表

号数	船名	噸數	船長	来港地	積荷	入港日	出港日
2161	Kobe Maru (神戸丸)	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090106	
2162	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090108
2162	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090113	
2163	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090115
2164	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090120	
2164	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090122
2164	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090127	
2165	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090129
2165	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090203	
2166	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090205
2166	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090210	
2167	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090213
2168	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090217	

關西大學『文學論集』第70卷第3号

2168	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090219
2168	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090224	
2169	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090228
2169	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090303	
2170	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090307
2170	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090310	
2171	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090312
2171	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090317	
2172	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090319
2172	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090324	
2173	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090326
2173	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090331	
2174	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090402
2174	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090407	
2175	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090409
2176	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090415	
2176	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19040416
2176	Saikio Maru (西京丸)	1552		Japan	General	19090420	
2176	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090421	
2177	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090423
2178	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19090504	
2179	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090506	
2179	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090506
2179	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090509
2180	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090514	
2180	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc		19090516
2180	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19090518	
2181	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090520
2181	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090521	

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2181	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090523
2181	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090525	
2182	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090527
2182	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090528	
2182	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090530
2182	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General	19090601	
2183	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090603
2183	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090604	
2183	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090606
2183	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19090608	
2184	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090610
2184	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090611	
2184	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090613
2184	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19090615	
2185	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090617
2185	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090618	
2185	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090620
2185	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19090622	
2186	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090624
2186	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090625	
2186	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090627
2186	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090629	
2187	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090701
2187	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090702	
2187	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090703
2187	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090706	
2188	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090708
2188	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090709	
2188	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090711
2188	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090713	

關西大學『文學論集』第70卷第3号

2189	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090715
2889	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090716	
2189	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090718
2189	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19099720	
2190	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090723
2190	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090723	
2190	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090725
2190	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General	19090727	
2191	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090729
2191	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090730	
2191	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090801
2191	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19090804	
2192	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090805
2192	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090806	
2192	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090808
2192	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090810	
2193	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090812
2193	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19090817	
2193	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc		19090818
2194	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090820	
2194	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090822
2194	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090824	
2194	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc		19090825
2195	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19090903	
2195	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090905
2195	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19090907	
2196	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090909
2195	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19090914	
2198	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090916
2198	Kobe Maru	1628	Higo	Dairen	General	19090917	

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2198	Kobe Maru	1628	Higo	Dairen	General		19090918
2198	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General	19090921	
2199	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19090923
2199	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19090924	
2199	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19090926
2199	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19090928	
2200	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19090930
2200	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091001	
2200	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091003
2200	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091005	
2201	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091007
2201	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19091008	
2201	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091010
2201	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091012	
2202	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091014
2202	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091014	
2202	Kobe Maru	1628	Higo	Dairen	General		19091016
2202	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091019	
2203	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091021
2203	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19091022	
2203	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091024
2203	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091026	
2204	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091028
2204	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091029	
2204	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091031
2204	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091102	
2205	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19091104
2205	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091105	
2205	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091107
2205	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091109	

關西大學『文學論集』第70卷第3号

2206	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091111
2206	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091112	
2206	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091114
2206	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091116	
2207	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091118
2207	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091119	
2207	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091120
2207	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19091123	
2208	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091125
2208	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091126	
2208	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091128
2208	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091201	
2209	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19091202
2209	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091203	
2209	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091204
2209	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091207	
2210	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091209
2210	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19091210	
2210	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091212
2210	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19091214	
2202	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19091216
2202	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19091217	
2202	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19091218
2202	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091221	
2203	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091223
2203	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19091224	
2203	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19091228	
2213	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19091230
2214	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100106
2214	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19100108	

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2214	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19100109
2214	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100112	
2215	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19100114	
2215	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19100115
2216	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General	19100122	
2216	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19100123
2217	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General	19100128	
2217	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General		19100129
2218	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	Mails, etc	19100204	
2218	Kobe Maru	1623	Higo	Dairen	General		19100206
2219	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100210
2219	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	Mails, etc	19100211	
2219	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen			19100212
2219	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100215	
2219	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19100217	
2220	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	Mails, etc	19100218	
2220	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General		19100220
2220	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19100222	
2221	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100224
2221	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	Mails, etc	19100226	
2221	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General		19100227
2222	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100303
2222	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General	19100304	
2222	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General		19100306
2222	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19100308	
2223	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100310
2223	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General	19100311	
2223	Kobe Maru	1623	Seyeda	Dairen	General		19100312
2223	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19100315	
2224	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100317

2224	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100318	
2224	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc		1910320
2224	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100322	
2225	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100324
2225	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General	19100325	
2225	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100326
2225	Kokura Maru	1610	Terada	Japan	General	19100327	
2225	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100329	
2226	Kokura Maru (小倉丸)	1710	Terada	Dairen	General		19100331
2226	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100401	
2226	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100402
2226	Kobe Maru	1623	Soyeda	Nagasaki	General		19100403
2226	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	Mails, etc	19100405	
2227	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	General		19100407
2227	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100408	
2227	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100410
2227	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	Mails, etc	19100412	
2228	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	General		19100414
2228	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100415	
2228	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100416
2228	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	Mails, etc	19100419	
2229	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	General		19100420
2229	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	Mails, etc	19100422	
2229	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100424
2229	Kokura Maru	1710	Terada	Dairen	Mails, etc	19100426	
2230	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	General		19100429
2230	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	Mails, etc	19100429	
2230	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100430
2230	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	Mails, etc	19100504	

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2231	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	General		19100505
2231	Kobe Maru	1623	Soyeda	Japan	Mails, etc	19100505	
2231	Saikio Maru	1652	Higo	Dairen	Mails, etc	19100506	
2231	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100508
2231	Kokura Maru	1610	Terada	Dairen	Mails, etc	19100510	
2232	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	General		19100512
2232	Kokura Maru	1610	Terada	Nagasaki	General	19100513	
2232	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100513	
2232	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100514
2232	Saikio Maru	1652	Higo	Dairen	Mails, etc	19100517	
2233	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	General		19100519
2233	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100520	
2233	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100522
2233	Saikio Maru	1652	Higo	Dairen	Mails, etc	19100524	
2234	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	General		19100526
2234	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100527	
2234	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100528
2234	Saikio Maru	1645	Higo	Dairen	Mails, etc	19100531	
2235	Saikio Maru	1652	Higo	Dairen	General		19100601
2235	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100603	
2235	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100605
2235	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100607	
2236	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100609
2236	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General	19100610	
2236	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100611
2236	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General	19100614	
2237	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100616
2237	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100617	
2237	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100619
2237	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100621	

2238	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100623
2238	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100624	
2238	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100625
2238	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19100628	
2239	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100630
2239	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100701	
2239	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100703
2239	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100705	
2240	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	General		19100607
2240	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100708	
2240	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100709
2240	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	Mails, etc	19100712	
2241	Saikio Maru	1645	Abe	Dairen	General		19100714
2241	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	Mails, etc	19100715	
2241	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dairen	General		19100717
2241	Saikio Maru	1652	Abe	Dairen	Mails, etc	19100719	
2242	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100721
2242	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100722	
2242	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100723
2242	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19100726	
2245	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100811
2245	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100812	
2245	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100814
2245	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19100816	
2246	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100818
2246	Kokura Maru	1710	Kon	Japan	General	19100818	
2246	Kokura Maru	1610	Soyeda	Dalny	General		19100820
2246	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100819	
2247	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100825
2247	Kokura Maru	1610	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100826	

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2247	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100828
2247	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19100830	
2248	Kokura Maru	1610	Soyeda	Dalny	General		19100901
2248	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100902	
2248	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100903
2248	Kokura Maru	1710	Kon	Dalny	Mails, etc	19100906	
2249	Kokura Maru	1610	Kon	Japan	General		19100908
2249	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100908
2249	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100909	
2249	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100910
2249	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19100913	
2250	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100915
2250	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100916	
2250	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100918
2250	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19100920	
2251	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100922
2251	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100923	
2251	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19100924
2251	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19100927	
2252	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19100929
2252	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19100930	
2252	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101002
2252	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101004	
2253	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101006
2253	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101007	
2253	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101008
2253	Saikio Maru	1652	Abe	Dalny	Mails, etc	19101011	
2254	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101013
2254	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101014	
2254	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101016

2254	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101018	
2255	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101020
2255	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101021	
2255	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101022
2255	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19100125	
2256	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101027
2256	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101028	
2256	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101030
2256	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101101	
2257	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101103
2257	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101104	
2257	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101106
2257	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101108	
2258	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101110
2258	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101111	
2258	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101113
2258	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101115	
2259	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101117
2259	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101118	
2259	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101120
2259	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101122	
2260	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101124
2260	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101125	
2260	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101127
2260	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101129	
2261	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101201
2261	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101202	
2261	Kobe Maru	1623	Soyeda	Dalny	General		19101204
2261	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101206	
2262	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101208

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

2262	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	Mails, etc	12101209	
2262	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	General		19101211
2262	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101213	
2263	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	General		19101215
2263	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	Mails, etc	19101216	
2263	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	General		19101218
2263	Saikio Maru	1645	Abe	Dalny	Mails, etc	19101220	
2264	Saikio Maru	1645	Terada	Dalny	General		19101222
2264	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	Mails, etc	10101223	
2264	Kobe Maru	1628	Soyeda	Dalny	General		19101225
2264	Saikio Maru	1645	Terada	Dalny	Mails, etc	19101227	

表1に見られる神戸丸，西京丸，小倉丸の船籍は日本船籍である。各船の荷受人は全船とも上海のN Ysusen Kaisha すなわち日本郵船会社が担当していた。

神戸丸は1909年4月中旬まで，毎週一回上海に入港するスケジュールで運航され，4月中旬以降に，西京丸が就航すると，2隻で毎週2回の大連・上海航路を規則正しい定期運航を行っていたことがわかる。神戸丸も西京丸も上海に入港するとほぼ1-2日の停泊後は，大連に向けて出港していった。この1年間，Kobe Maru，神戸丸の船長はHigoとあり，Saikio Maru，西京丸はAbeと別人に替わることはなかった。

1909年4月中旬までは神戸丸による毎週一回，それ以降は神戸丸と西京丸との2隻で大連・上海航路の運航を維持したことは，南満洲鐵道株式會社にとって中国東北部での鉄道の定期運航とともに，対外的に重要な宣伝媒体ともなったことは確かである。表1に見られる時期において上海と大連を直接結ぶ他の汽船会社は見られず，まして定期運航していたのは南満洲鐵道株式會社によるこの上海航路のみであった。

大連・上海の定期航路に就航したのは西京丸と神戸丸であった。西京丸と神

戸丸は、ともに英国のグラスゴーのロンドン・アンド・グラスゴー・アンド・エンジニアリング・アンド・アイアン造船所において、1888年（明治21）6月と8月に建造され、西京丸が2,913總噸、神戸丸が2,901總噸のほぼ姉妹船と言ふべき鋼鉄船で、明治21年（1888）8月と10月から日本郵船会社の所有船となった汽船であった。ともに大正10年（1921）5月と7月に売却された。²⁰⁾

このことから西京丸と神戸丸は明治41年（1908）から南満洲鐵道株式会社の大連・上海航路に就航するが、この時点では日本郵船会社からの傭船として使われていたことになる。

大正2年（1913）当時の南満洲鐵道株式会社の大連・上海航路に就航していた神戸丸と榊丸については次の記録がある。

神戸丸 2,877總噸 速力14海里、一等船客32名、二等船客36名、三等船客225名
貨物積載量1,000噸

榊丸 3,876總噸 速力19海里、一等船客63名、二等船客20名、三等船客164名
貨物積載量1,000噸²¹⁾

榊丸は神戸丸と比較して、總噸数において約1.3倍、速力は約1.36倍の差があった。しかし搭乗客数では神戸丸の方が1.2倍ほど多かった。両船とも大連・上海間航路の貨客船として活動していた。

1910年3月から9月にかけて上海大連間に航運活動を行った Kokura Maru こと小倉丸は日本郵船会社の汽船であった。明治29年（1896）11月1日に陸軍省から払い下げを受けた明治20年（1887）9月にイギリスのミッドルズブローで建造された三連成機関、2,389総トンであり、大正9年（1910）11月10日に坐礁し、12月1日に沈没した汽船であった。²²⁾ この上海大連航路を航行した時期は、小倉丸の晩期の活動であった。

つぎの表2、図1、2からも明らかなように、南満洲鐵道株式会社の上航路は経営的には赤字で、大きな利益を生むようなことはなかった。

この上海航路に日本郵船会社の上海の社員として勤務した山口啓三の回顧談によれば次のようである。

南満洲鐵道株式會社の上海航路（松浦）

表2 1908-1920年南満洲鐵道株式會社の上海航路營業実績²³⁾

西曆	日本曆	乗船数	貨物噸	収入	支出
1908	明治41	1,726	10,759	78,320	204,199
1909	明治42	4,382	31,735	191,238	446,297
1910	明治43	4,775	55,835	280,077	472,996
1911	明治44	7,793	62,561	361,702	509,241
1912	大正01	7,325	105,016	535,848	558,085
1913	大正02	7,534	103,332	672,617	799,287
1914	大正03	5,596	132,423	1,051,333	1,220,406
1915	大正04	14,335	173,725	1,266,462	1,220,135
1916	大正05	20,305	156,557	1,730,025	1,516,393
1917	大正06	24,623	157,786	3,616,634	2,553,348
1918	大正07	32,520	150,146	2,293,574	2,007,504
1919	大正08	22,227	94,310	1,707,904	1,958,492
1920	大正09	22,331	66,721	1,069,755	1,726,002

貨物はアメリカ噸, 1噸2,000ポンド, 約907.2kgで計算されている。

神戸丸、西京丸を満鐵會社がチャーターして、大連と上海の航路を開かれました當時、私は郵船會社の上海の店に居りました。當時、亞米利加及加奈陀から上海に却々大きな船が来て居りましたが、上海を起點として亞米利加に行き、汽車で大西洋岸に出て、さうして歐羅巴に通ずる一つの歐亞連絡經路と、それから西比利亞鐵道が開通し、歐羅巴から西比利亞經由で大連に来ます經路とが地球を一巻き巻いて居りました。満鐵は其の歐羅巴と亞細亞とを連絡する通路の一部分の鐵道を經營して居りながら、大連と上海との水上の連絡がありませぬので、非常に遺憾とせられて居りました。……短い航路であるが、非常に重要視せられ、満鐵會社が遠大な理想を以て此の間の連絡航路を開かれたのでございました。……

其の當時はチャーターレージも相當のものであつたと思ひますが、満鐵會社は中々犠牲を拂はれたもので御座います。私が明治四十二年であつた

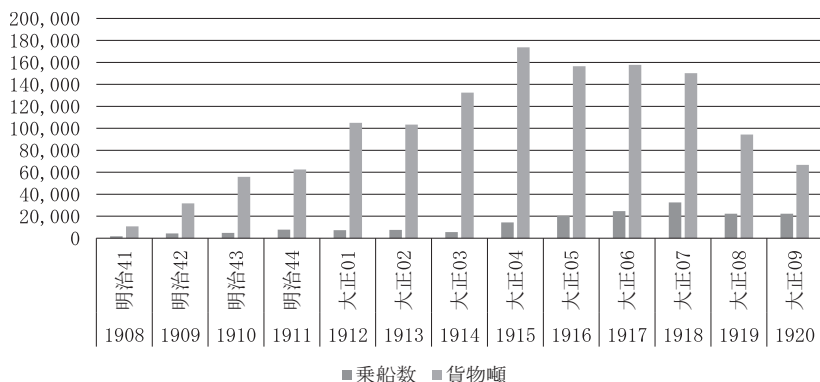


図1 1908-1920年南満洲鐵道會社上海航路の乗客数・貨物数の推移

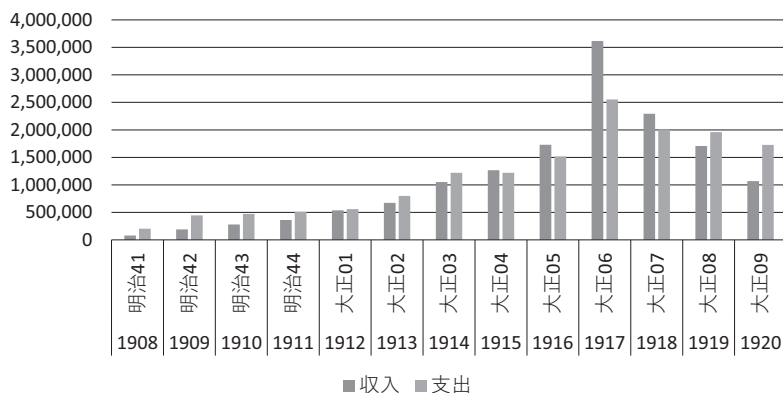


図2 1908-1920年南満洲鐵道會社の上海航路收支推移

と思ひますが、満洲の方に一寸旅行に参りまして、……西京丸、神戸丸の決算書のやうなものを一寸示された事がありますが、一船一年に約十五萬圓位赤字が出る、双方で三十萬圓位の赤字が出るといふ有様でしたが、萬鐵の考にても十五萬や三十萬の赤字は全然、問題ではないのだと云ふことを聞かされまして、満鐵の鼻息の荒いことと理想の大きいことを承知致しまして、誠に欣快に感じました。²⁴⁾

南満洲鐵道株式會社が大連・上海間の定期航路を開始した当時に上海の日本郵船会社支店に勤務していた山口啓三の談話であるだけに信憑性が高く、南満洲鐵道株式會社は大連から上海への定期航路を運航する目的は、同社の威信をかけ、同定期航路が運航実績では大幅な欠損を生じることを覚悟して実施していたことが解る。

神戸丸と西京丸について、南満洲鐵道株式會社は榊丸を投入するが、その際の経緯について榊丸の一等運転士であった大塚源吾の「上海航路の榊丸の話」²⁵⁾がある。

榊丸は大連上海間の航路に使用する爲め建造されたのですが、同航路は明治四十一年に滿鐵が郵船會社の神戸丸、翌年に西京丸を傭船し二隻で、毎週一回、直航航路を初められたのです。其後滿洲の宣傳の爲め歐亞の聯絡を大連經由とする希望で、其の使用船に優秀船建造を企てられました。²⁶⁾

神戸丸、西京丸の二隻で開始された南満洲鐵道株式會社の上海航路に、新たに榊丸が投入されることになる。大塚源吾は次のように述べている。

……海事協會が八十萬圓、滿鐵が五十萬圓を支出して榊丸が出来上つたと云ふ事でした。それで大正二年八月に當大連港に廻航されたのであります。²⁷⁾

榊丸は大連の海事協會が80万円と南満洲鐵道株式會社が50万を支出して建造し、大正2年（1913）8月に大連に廻航された。榊丸を建造したのは神戸の川崎造船所であった。榊丸は3,875噸で帝國海事協會が注文主として、大正2年（1913）3月に進水している。²⁸⁾

榊丸の噸數は三、八〇〇噸でしたが、何分義勇艦であり滿鐵の宣傳船であるから、^{なかなか}却々立派なもので、其れの當時としては至れり盡せりでした。遊歩甲板なども大變廣いし、又甲板上の通路なども普通船の二倍もある位で之は全部「チーク」張でした。之は聯絡客が遠く西洋から二週間も列車中に閉ち込められて、大變窮屈な目に遇つて來るのであるから、船では大に海上の風光を味はせ、又運動も出来る様にして大に優遇しようと云う考へ

であります。又總ての設備は其の基準を郵船會社の歐洲航路船に採りました。料理人も亦特別腕利きを選抜して乗船させました。こんな譯で船客うよりは大いに賞賛されました。²⁹⁾

日露戦争の際に戦時補助船舶の不足から、帝国海事協会が、平時において旅客船として、有事には仮装巡洋艦とする兵商両用の船舶として建造されたのが義勇隊であった。その一隻として建造されたのが榊丸であった。³⁰⁾ そのような榊丸であったが、船内の内装には外洋航路の乗客に船の長旅を和ませる工夫が施されてあったことわかる。とりわけ、船内の食事にも配慮されていたことが知られる。

……斯くて大正二年八月十日を初航海として、神戸丸と共に一週間一航海の定期をしました。……³¹⁾

榊丸は大正2年(1913)8月10日に大連から上海への航海に就航し、神戸丸とともに毎週一回の定期航路を維持した。

榊丸は「ボイラー」八箇を備へ「カーチス」式「タービン」二基を付けて最高速力二十一浬、満船して普通航海の速力が一七浬の設計一でありました。そして大連上海間五百五十浬を一晝夜半、即ち今朝出れば翌日の夕刻には到着する豫定でしたが、実際には中々そんな具合に行かず、最高速力は十九浬七でした。又普通航海速力十七浬を持続することはとても出来ませんでした。³²⁾

榊丸は、大連・上海間の航海を一晝夜半の航海を予定していたが、その維持は困難で、ほぼ2日間で航海していた。海洋航行中が往復4日、大連と上海に各一日停泊とすると確実に一週間で一航海が可能であった。

その後の南満洲鐵道株式會社の大連上海航路はどのようになったかについて、同社の関係会社の大連汽船会社の社史に見られる。

本航路(大連—青島—上海線)は南満洲鐵道株式會社が西北利鐵道經由歐亞連絡の主要航路として自營せるものなりしが、大正十年當時さかき丸(三、四〇〇噸)西京丸(二、八四八噸)及神戸丸(二、九二三噸)の三

隻により三日目出帆一箇月十回の定期航海を踏み來りしも、同年七月神戸丸を引上げ一箇月六回の航海に減少することとなりしを以て、當社は滿鐵と協議の結果、當社の大連—青島線を廢止、大連—天津線の長平丸（一、七一七噸）を青島上海へ延長、一箇月三回の定期運航に従事せしめ大連—上海間は歐亞連絡船として其の任務に就くこととなれり。翌十一年七月より滿鐵に於ては本航路の經營を當社に委託するに及び長平丸を本航路に加へ、さかき丸及び西京丸とともに月十回定期航路に復舊せり。³³⁾

南満洲鐵道株式會社の大連上海航路はシベリア鐵道への連絡航路として運営されていたが、大正10年（1921）7月から大連汽船会社が、南満洲鐵道株式會社が減便した神戸丸の運航分を、大連汽船会社の長平丸を大連・青島航路から上海へ延長させ引き継いだ。さらに大正11年（1922）7月から南満洲鐵道株式會社の委託を受けた大連汽船会社が上海航路の運航を引き継いだのであった。

昭和4年（1939）の「大連汽船航路御案内」³⁴⁾には「大連・青島・上海 大連—天津 航路案内」が見られ上海航路使用船として次の奉天丸等三隻が掲げられている。

奉天丸 三九七六噸 大連丸 三八〇〇噸 榊丸 三四〇〇噸³⁵⁾

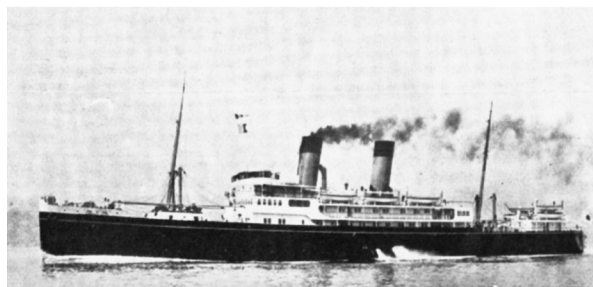
南満洲鐵道株式會社から大連汽船会社へと継承された大連・上海航路は南満洲鐵道株式會社以来の榊丸の他に奉天丸と大連丸の3隻で運航されていた。大連汽船会社の社史では、奉天丸は1928年製造の総トン数3,975.51、3,300馬力、速力17.9ノットであり、大連丸は1925年製造の3,748.19総トン、3,300馬力、17.2ノット³⁶⁾の同能力の汽船であった。

その後の「大連汽船株式會社 航路案内」には「定期旅客路」として

大連—青島—上海線 二日又ハ三日目一回出帆

使用船大連丸（四、〇〇〇噸） 奉天丸（四、〇〇〇噸） 青島丸（四、〇一七噸 下写真参照）³⁷⁾

とあり、榊丸にかわって青島丸が大連青島上海航路に就航していた。青島丸は1930年製造の4,017.39総トン、3,300馬力、17.2ノット³⁸⁾と、大連丸、奉天丸



青島丸（『大連汽船株式會社 航路案内』による）

と同程度の汽船であった。

4 小 結

南満洲鐵道株式會社の初代総裁後藤新平時代から、鐵道の整備のみならず大連港の設備の整備を進捗させるとともに、歐洲とアジアを聯絡する鉄道路線の計画があった。そのために明治41年（1908）5月より、大連と長春間の鐵路に毎週2回の急行を運行すること、そして同年8月には、日本郵船會社から傭船した神戸丸2,877噸を大連・上海航路に就航させ、南満洲鐵道株式會社が大連・上海間の定期航路を開始した。南満洲鐵道株式會社は、同社の威信をかけ、同定期航路が運航実績では大幅な欠損を生じることを覚悟して実施していたことが解る。

先に表示した上海の英字新聞の出入船の記録では、1909-1910年当時において、上海から大連へ航行する船舶は、不定期に数隻見られるが、南満洲鐵道株式會社の2隻の汽船が定期的に航行している以外に、定期船の航行は見られない。南満洲鐵道株式會社が運航する大連・上海航路が唯一、大連と上海を結ぶ航路であったことは確かである。1909-1910年の2年間の航行表から、この航路を担った神戸丸と西京丸ともに、上海を出港後ほぼ5日後に再び上海に恒常的に入港してくるといふ定期運航をおこなっていた。そして両船は3-4日間隔

で大連を出港し、上海に入港していた。上海から大連へは一週間に2回の航行機会があったのである。その後、毎週3回の運航を行っていた。その後、大正11年（1922）7月に南満洲鐵道株式會社の子会社であった大連汽船会社に同航路の運営を委託するまで15年にわたり運航した。同航路は、シベリア鐵道を通じてヨーロッパ・アジアを結ぶ鐵路への連繫窓口港である大連と東アジアの經濟一大拠点となった上海を結ぶ重要航路を運航したのであった。

南満洲鐵道株式會社にとって世界へ通じる鐵路の一翼を担うと同時に、顧客に便宜を与える方法として、大連・上海航路は重要な意味を持つ幹線航路が規則的な定期運航を行っていたと言えるであろう。

注

- 1) 松本豊三『南満洲鐵道株式會社三十年略史』南満洲鐵道株式會社、1937年4月、1-2頁。
- 2) 松本豊三『南満洲鐵道株式會社三十年略史』によれば、鐵道事業、鐵道受託經營、鉦業、製油、製鉄、商事、地方經營等が掲げられている（同書、61-593頁）。
- 3) 松宮吉郎著『大連【昭和十二年版】』滿鐵鐵道總局營業局旅客課、1937年6月による。
- 4) 財団法人滿鉄會編『滿鉄四十年史』吉川弘文館、2007年11月、242頁。
- 5) 財団法人滿鉄會編『滿鉄四十年史』吉川弘文館、2007年11月、36頁。
- 6) 松本豊三編『南満洲鐵道株式會社三十年略史』南満洲鐵道株式會社、1937年4月、6頁。
- 7) 松本豊三編『南満洲鐵道株式會社三十年略史』6頁。
- 8) 松本豊三編『南満洲鐵道株式會社三十年略史』6-7頁。
- 9) 財団法人滿鉄會編『滿鉄四十年史』吉川弘文館、2007年11月、24頁。
- 10) 財団法人滿鉄會編『滿鉄四十年史』30頁。
- 11) 財団法人滿鉄會編『滿鉄四十年史』34-35頁。
- 12) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所、1913年6月、17頁。
- 13) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』18頁。
- 14) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』32頁。
- 15) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』32-33、113-120頁。
- 16) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』122-123頁。
- 17) 南満洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』34-35頁。
- 18) 笠原益恵編『滿鐵の事業と人物』滿蒙産業研究會、1922年5月、472、72、12頁。
- 19) 笠原益恵編『滿鐵の事業と人物』46頁。

- 20) 日本郵船株式會社編『日本郵船會社五十年史』日本郵船株式會社, 1935年12月, 636頁。
- 21) 南滿洲鐵道株式會社大連埠頭事務所編『大連港』36頁。
- 22) 日本郵船株式會社編『日本郵船株式會社五十年史』日本郵船株式會社, 1935年12月, 639頁。
日本郵船株式會社編『七十年史』日本郵船株式會社, 1956年7月, 679頁。
- 23) 笠原益恵編『滿鐵の事業と人物』116-117頁。
- 24) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 大連海務協會, 1936年10月, 海事座談會, 50頁。
- 25) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 大連海務協會, 1936年10月, 海事座談會, 47-50頁。
- 26) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 海事座談會, 47頁。
- 27) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 海事座談會, 47頁。
- 28) 阿部市助編『川崎造船所四十年史』川崎造船所, 1936年11月, 301頁。
- 29) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 海事座談會, 47頁。
- 30) 上野喜一郎編『船舶百年史』前編, 有明書房, 1957年9月, 68頁。
- 31) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 海事座談會, 48頁。
- 32) 『海友 開港三十周年記念號』通卷316号, 海事座談會, 48頁。
- 33) 水地慶治編『大連汽船株式會社二十年略史』大連汽船株式會社, 1935年6月, 240頁。
- 34) 松浦章編著『近代日本の中国・台湾汽船「航路案内」—船舶データベースの一端』関西大学アジア文化研究センター, 2015年2月, 51-54, 162-165頁。
- 35) 大連汽船株式會社編『大連汽船 航路御案内』大連汽船株式會社, 1939年3月15日発行。
松浦章編著『近代日本の中国・台湾汽船「航路案内」—船舶データベースの一端』関西大学アジア文化研究センター, 165頁。
- 36) 水地慶治編『大連汽船株式會社二十年略史』大連汽船株式會社, 206-207頁。
- 37) 大連汽船株式會社編『大連汽船株式會社 航路案内』大連汽船株式會社, 出版年不詳。
松浦章編著『近代日本の中国・台湾汽船「航路案内」—船舶データベースの一端』関西大学アジア文化研究センター, 167頁。
- 38) 水地慶治編『大連汽船株式會社二十年略史』大連汽船株式會社, 211頁。